

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2013年12月12日(当初設定日)から無期限です。	
運用方針	実質的に日本を含む世界の株式および債券等への投資ならびにデリバティブ取引を行うことにより信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	ピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンド受益証券
	マザーファンド	投資信託証券
運用方法	<p>①マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、実質的に日本を含む世界の株式および債券等への投資ならびにデリバティブ取引を行います。</p> <p>②有価証券指数等先物取引等および為替予約取引等を行うことがあります。</p>	
主な投資制限	当ファンド	<p>①投資信託証券(マザーファンド受益証券を除きます。)への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。</p> <p>②外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p>
	マザーファンド	<p>①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。</p> <p>②投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託の受益証券以外の有価証券への直接投資は行いません。</p> <p>③外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p>
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。</p> <p>③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	



PICTET

1805

ピクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド

愛称:クアトロ

運用報告書(全体版)

第5期

決算日:2016年2月15日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「ピクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド」は、2016年2月15日に第5期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ投信投資顧問株式会社

東京都千代田区丸の内2-2-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

電話番号 0120-56-1805

受付時間:委託者の営業日午前9時から午後5時まで

ホームページ:www.pictet.co.jp

■設定以来の運用実績

決算期	基準価額			株式 先物比率	債券 先物比率	投資信託 証券比率	純資産 総額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率				
(設定日) 2013年12月12日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	% —	百万円 967
1期(2014年2月17日)	10,046	0	0.5	2.2	—	80.8	2,143
2期(2014年8月15日)	10,177	0	1.3	4.6	2.4	85.7	4,852
3期(2015年2月16日)	10,602	0	4.2	5.5	1.4	87.6	4,703
4期(2015年8月17日)	10,626	0	0.2	2.4	4.5	86.0	5,966
5期(2016年2月15日)	10,161	0	△ 4.4	1.5	3.6	86.6	9,166

(注1) 設定日の基準価額および純資産総額は、それぞれ当初設定価額および当初設定元本額を記載しています。

(注2) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「投資信託証券比率」は、実質比率を記載しています。

(注3) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

■当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		株式 先物比率	債券 先物比率	投資信託 証券比率
		騰落率			
(期首) 2015年8月17日	円 10,626	% —	% 2.4	% 4.5	% 86.0
8月末	10,438	△ 1.8	2.2	9.1	81.4
9月末	10,340	△ 2.7	2.3	9.8	79.7
10月末	10,519	△ 1.0	2.3	9.0	81.1
11月末	10,509	△ 1.1	2.4	4.8	86.6
12月末	10,436	△ 1.8	2.0	4.7	85.6
2016年1月末	10,321	△ 2.9	1.7	4.2	84.9
(期末) 2016年2月15日	10,161	△ 4.4	1.5	3.6	86.6

(注1) 騰落率は期首比です。

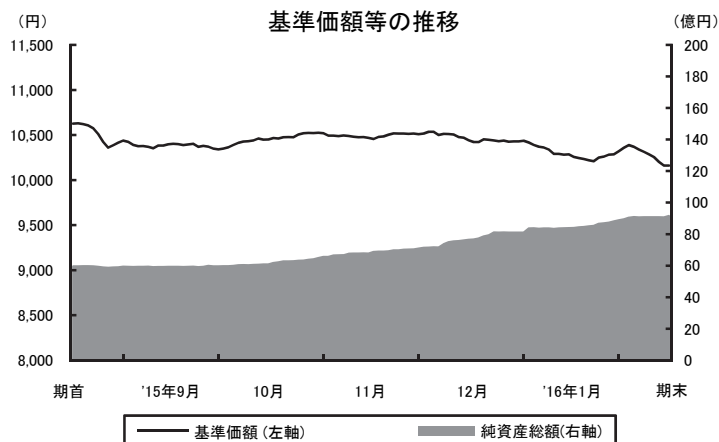
(注2) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「投資信託証券比率」は、実質比率を記載しています。

(注3) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

■当期中の運用状況と今後の運用方針(2015年8月18日から2016年2月15日まで)

1. 基準価額等の推移

当期の基準価額は、4.4%の下落となりました。



◇主な変動要因

当期においては、ピクテのテーマ戦略に投資する「ピクテグローバル・メガトレンド・セクション」や世界の株式の中から高質な銘柄に投資する「ピクテクオリティ・グローバル・エクイティ」、米国の投資適格債で構成される指数に連動する運用成果を目指す「i シェアーズ・コア 米国総合債券市場ETF(米ドル建て)」、ユーロ建てハイ・イールド債券に投資する「ピクテユーロ・ハイ・イールド」などの下落が基準価額の主な下落要因となりました。

2. 投資環境

- 世界の株式市場は、世界的な景気減速懸念や需給悪化観測を背景とした商品市況の低迷、日銀のマイナス金利導入による銀行の収益悪化懸念、欧州の一部銀行の信用不安などを受けて下落しました。
- 債券市場は、世界的な景気減速懸念や株式市場の急落などを受けてリスク回避姿勢が強まったことなどを背景にベースとなる米国債は上昇(利回りは低下)したものの、米ドル建て新興国債と米国債とのスプレッド(利回り格差)は拡大し、米ドル建て新興国ソブリン債券市場が下落(利回りは上昇)しました。また、商品市況が低迷する中で、ハイ・イールド債券市場はエネルギーや素材セクター主導で下落(利回りは上昇)する展開となりました。
- 為替市場は、2015年12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げが開始されるとの観測が高まる中、投資家がドル買いポジションを解消する動きも見られたことなどから、円に対してドルが下落しました。2016年1月の金融政策決定会合で日銀がマイナス金利の導入を決定すると主要通貨に対して一時円安が進行しましたが、銀行収益の悪化懸念などから世界的に株価が下落して投資家のリスク回避姿勢が高まり、再び円高基調が強まりました。

3. 組入状況

当ファンドが主要投資対象とするピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンド受益証券への投資比率を高位に維持してまいりました。

〈マザーファンドの組入状況〉

投資信託証券への投資を通じて、世界中の株式や公社債など様々な資産を投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行ってまいりました。

投資信託証券の組入状況は以下のとおりです。

種類	投資先ファンド (主な特色)	組入比率	
		期首	期末
債券	ピクテ円インカム・セレクト・ファンドⅡ (適格機関投資家専用) (ヘッジ後利回りの高い国の国債に厳選投資)	10.0%	7.6%
	ピクテ - ユーロボンド (ユーロ建て債券に投資、円ヘッジ)	7.5%	7.5%
	PGSF 世界分散債券ファンド (世界の様々な債券に投資)	—	7.5%
	i シェアーズ 米国物価連動国債 ETF (米国の物価連動国債指数に連動する運用成果を目指す)	—	7.3%
	i シェアーズ・コア 米国総合債券市場 ETF (米ドル建て投資適格債券に投資)	10.9%	7.3%
	ピクテグローバル・エマージング・デット (米ドル建て新興国債券に投資、円ヘッジ)	5.0%	4.9%
	ピクテ - US ハイ・イールド (米ドル建てハイ・イールド債券に投資)	2.5%	2.3%
	ピクテ - ユーロ・ハイ・イールド (ユーロ建てハイ・イールド債券に投資)	2.5%	—
	ピクテ - エマージング・コーポレート・ボンド (新興国の社債に投資)	2.5%	—
株式	i シェアーズ MSCI オール・カンントリー・ワールド・ミニマム・ボラティリティ ETF (先進国・新興国の低ボラティリティ指数への連動を目指す)	3.7%	4.7%
	ピクテ - クオリティ・グローバル・エクイティ (世界の株式の中から高質な銘柄に投資)	2.5%	2.3%
	i シェアーズ JPX 日経 400 ETF (JPX 日経インデックス 400 への連動を目指す)	1.2%	2.2%
	ピクテ - グローバル・メガトレンド・セクション (ピクテのテーマ戦略に投資)	2.4%	2.2%
	i シェアーズ MSCI ジャパン 小型株 ETF (日本の小型株に投資)	2.4%	2.1%
	ピクテ日本ナンバーワン・ファンド (適格機関投資家専用) (日本のナンバーワン企業の株式)	1.3%	—

種類	投資先ファンド (主な特色)	組入比率	
		期首	期末
オルタナティブ	ピクテ・トータル・リターン － コスモス (グローバル・クレジット・ロング・ショート戦略)	5.2%	4.5%
	ピクテ － アブソリュート・リターン・フィックスド・インカム (世界の様々な債券や通貨等に投資し、絶対収益の獲得を目指す)	6.2%	4.5%
	ピクテ・トータル・リターン － ディバーシファイド・アルファ (株式や債券等に投資し、絶対収益を目指すマルチストラテジー型市場中立運用)	4.9%	4.5%
	ピクテ・トータル・リターン － アゴラ (市場中立型欧州株式ロング・ショート戦略)	4.9%	3.5%
	ピクテ・トータル・リターン － フェニックス (市場中立型アジア株式ロング・ショート戦略)	－	2.2%
	ピクテ(CH)プレシャス・メタル・ファンド － フィジカル・ゴールド (金に投資)	1.3%	2.1%
	ピクテ・トータル・リターン － マンダリン (グレイターチャイナ(香港、台湾、中国)株式ロング・ショート戦略)	2.4%	1.9%
	NEXT FUNDS 東証 REIT 指数連動型上場投信 (東証 REIT 指数への連動を目指す)	1.3%	1.2%
	ピクテ・トータル・リターン － コルト・ヨーロッパ (欧州株式ロング・ショート戦略)	－	1.1%
短期金融商品等	ピクテ － ショートターム・マネー・マーケット JPY (短期金融商品等に投資)	5.6%	4.7%

(注) “PGSF”は「ピクテ・グローバル・セレクトジョン・ファンド」の略称です。以下当略称で表記する場合があります。また、組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。－印は組入れがありません。

当ファンドにおいて上記のほか、先物取引を行いました。先物取引の組入状況は以下のとおりです。

種類	名称	組入比率	
		期首	期末
株式	米 S&P500 種指数先物	2.4%	1.5%
債券	3年オーストラリア国債先物	4.5%	3.6%

(注) 組入比率はファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

上記の投資環境下、当ファンドでは安定した収益が見込める債券や短期金融商品をポートフォリオの中核に据えました。債券では、ユーロ・ハイ・イールド債券を全売却した他、米国債券に利益確定の売りを出しました。一方、デュレーションを短期化するために世界分散債券(円)の組入れを増やしました。また、オルタナティブでは、市場中立型欧州株式ロング・ショート戦略を一部売却する一方、欧州株式ロング・ショート戦略への投資を再開しました。

4. 収益分配金

当期の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案し、見送りとさせていただきます。
なお、収益分配にあてなかった留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

◇分配原資の内訳

(単位：円・%、1万口当たり、税引前)

項 目	第5期
	自 2015年 8月 18日 至 2016年 2月 15日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	537

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、当ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

5. 今後の運用方針

株式と債券をバランス良く保有する他、金への投資も継続し、リスクに配慮したポートフォリオを維持します。日欧で大規模な量的金融緩和策が実施されている他、日銀がマイナス金利の導入を決定するなど、緩和的な流動性環境は引き続きリスク資産の下支え材料となります。日本の大型および小型株式、Jリート、欧州株式ロング・ショート戦略、米ドル建てハイ・イールド債券などが有望な投資対象となります。新興国では、経済に安定化の兆しが見られる他、バリュエーションが割安な水準にあることから、市場中立型アジア株式ロング・ショート戦略やドル建て新興国国債に投資妙味があります。

■1万口(元本10,000円)当たりの費用明細

項 目	当期 (2015年8月18日～2016年2月15日)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
平均基準価額	10,427円	—	期中の平均基準価額(月末値の平均値)です。
(a) 信託報酬 (投信会社)	57円 (17)	0.550% (0.161)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(39)	(0.376)	・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価
(受託会社)	(1)	(0.013)	・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料 (投資信託証券)	4 (4)	0.043 (0.041)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(先物・オプション)	(0)	(0.002)	・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (投資信託証券)	0 (0)	0.000 (0.000)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ・有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用)	3 (0)	0.026 (0.001)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用) (その他)	(1) (2)	(0.009) (0.016)	・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、目論見書、運用報告書等法定の開示書類の作成等に要する費用等
合 計	64	0.619	

- (注1) 上記の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、設定・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目毎に小数第3位未満は四捨五入しています。
(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。なお、マザーファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用は含みません。
(注4) 各金額の円未満は四捨五入しています。

■当期中の売買および取引の状況(2015年8月18日から2016年2月15日まで)

先物取引の種類別取引状況

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
外 国		百万円	百万円	百万円	百万円
	株 式 先 物 取 引	309	286	—	—
	債 券 先 物 取 引	1,294	1,196	—	—

- (注1) 単位未満は切り捨てています。
(注2) 外国の取引金額は、各月末(決算日の属する月については決算日)の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

■親投資信託受益証券の設定、解約状況(2015年8月18日から2016年2月15日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンド	3,360,246	3,598,664	128,671	138,123

(注) 単位未満は切り捨てています。

■利害関係人との取引状況等(2015年8月18日から2016年2月15日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

■自社設定投資信託受益証券等の状況等(2015年8月18日から2016年2月15日まで)

該当事項はありません。

■特定資産の価格等の調査(2015年8月18日から2016年2月15日まで)

該当事項はありません。

■組入資産の明細(2016年2月15日現在)

先物取引の銘柄別期末残高

銘 柄 別		当 期 末	
		買 建 額	売 建 額
外国		百万円	百万円
	米 S&P500 種指数先物	136	-
	3年オーストラリア国債先物	326	-

(注1) 単位未満は切り捨てています。

(注2) -印は組入れがありません。

親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンド	5,460,537	8,692,111	9,044,142

(注) 単位未満は切り捨てています。

〈参考情報〉

下記は、当ファンドが組入れているピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンド全体(9,755,582千口)の内容です。

(1) 邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)	当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
	口	口	千円	%
ピクテ日本ナンバーワン・ファンド(適格機関投資家専用)	58,514,564	—	—	—
ピクテ・ユーロ・ハイ・イールド	4,918	—	—	—
ピクテ・エマーゼン・コーポレート・ボンド	12,246	—	—	—
ピクテ円インカム・セレクト・ファンドII(適格機関投資家専用)	654,270,165	757,674,112	767,902	7.6
ピクテ・ユーロボンド	6,421	9,740	756,662	7.5
PGSF - 世界分散債券ファンド	—	76,168	758,333	7.5
ピクテ・グローバル・エマーゼン・デット	24,127	36,701	493,161	4.9
ピクテ・ショートターム・マネー・マーケット JPY	3,654	4,722	479,476	4.7
ピクテ・トータル・リターン - コスモス	32,410	44,214	457,619	4.5
ピクテ・アブソリュート・リターン・フィックスド・インカム	37,738	42,733	452,122	4.5
ピクテ・トータル・リターン - ディバーシファイド・アルファ	21,715	31,013	454,012	4.5
ピクテ・トータル・リターン - アゴラ	21,114	22,195	353,160	3.5
ピクテ・クオリティ・グローバル・エクイティ	9,570	16,370	228,774	2.3
ピクテ・USハイ・イールド	8,854	14,847	230,959	2.3
i シェアーズ JPX日経400 ETF	5,400	18,800	220,524	2.2
ピクテ・グローバル・メガトレンド・セレクション	5,493	10,316	221,534	2.2
ピクテ・トータル・リターン - フェニックス	—	23,286	227,909	2.2
ピクテ(CH)プレシヤス・メタル・ファンド - フィジカル・ゴールド	6,043	15,184	209,256	2.1
ピクテ・トータル・リターン - マンダリン	13,499	17,424	193,256	1.9
NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	45,050	64,000	121,024	1.2
ピクテ・トータル・リターン - コルト・ヨーロッパ	—	6,254	114,287	1.1
合 計	713,042,987	758,128,088	6,739,978	66.4

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注2) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注3) —印は組入れがありません。

(2) 外貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)	当 期 末			
	口 数	口 数	評 価 額		比 率
			外貨建金額	邦貨換算金額	
	口	口	千米ドル	千円	%
(アメリカ)	口	口	千米ドル	千円	%
ISHARES TIPS BOND ETF	—	58,362	6,513	738,140	7.3
ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	52,567	59,467	6,527	739,783	7.3
ISHARES MSCI ALL COUNTRY WORLD MINIMUM	27,500	62,300	4,208	477,004	4.7
ISHARES MSCI JAPAN SMALL-CAP ETF	21,093	36,793	1,904	215,826	2.1
合 計	101,160	216,922	19,154	2,170,755	21.4

(注1) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注4) —印は組入れがありません。

■投資信託財産の構成

(2016年2月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンド	9,044,142	97.8
コー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	203,304	2.2
投 資 信 託 財 産 総 額	9,247,446	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注2) ピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(2,170,756千円)の投資信託財産総額(10,150,519千円)に対する比率は21.4%です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(23,310千円)の投資信託財産総額(9,247,446千円)に対する比率は0.3%です。

(注4) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは、1米ドル=113.33円、1オーストラリアドル=80.66円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2016年2月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	10,606,326,516 円
コー ル ・ ロ ー ン 等	153,922,418
ピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンド(評価額)	9,044,142,288
未 収 入 金	1,377,746,056
未 収 利 息	4
差 入 委 託 証 拠 金	30,515,750
(B) 負 債	1,439,610,378
未 払 金	1,370,047,539
未 払 解 約 金	28,697,319
未 払 信 託 報 酬	39,122,268
そ の 他 未 払 費 用	1,743,252
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	9,166,716,138
元 本	9,021,440,838
次 期 繰 越 損 益 金	145,275,300
(D) 受 益 権 総 口 数	9,021,440,838 口
1 万 口 当 ち 基 準 価 額 (C / D)	10,161 円

<注記事項(当運用報告書作成時点では、監査未了です。)>

(貸借対照表関係)

(注1) 期首元本額 5,614,856,115 円

期中追加設定元本額 4,118,537,798 円

期中一部解約元本額 711,953,075 円

(注2) 1口当たり純資産額 1.0161 円

■損益の状況

当期(自2015年8月18日 至2016年2月15日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	2,898 円
受 取 利 息	2,898
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 279,184,365
売 買 益	112,614,694
売 買 損	△ 391,799,059
(C) 先 物 取 引 等 取 引 損 益	△ 14,997,203
取 引 益	10,080,653
取 引 損	△ 25,077,856
(D) 信 託 報 酬 等	△ 40,865,520
(E) 当 期 損 益 金 (A + B + C + D)	△ 335,044,190
(F) 前 期 繰 越 損 益 金	165,859,078
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	314,460,412
(配 当 等 相 当 額)	(316,715,521)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 2,255,109)
計 (E + F + G)	145,275,300
(I) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (H + I)	145,275,300
追 加 信 託 差 損 益 金	314,460,412
(配 当 等 相 当 額)	(319,018,137)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 4,557,725)
分 配 準 備 積 立 金	165,859,078
繰 越 損 益 金	△ 335,044,190

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(D)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 第5期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(319,018,137円)および分配準備積立金(165,859,078円)より分配対象収益は484,877,215円(10,000口当たり537円)ですが、当期に分配した金額はありません。

〈お知らせ〉

該当事項はありません。

ピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンド

運用状況のご報告

第2期（決算日：2015年8月17日）
（計算期間：2014年8月16日～2015年8月17日）

受益者のみなさまへ

「ピクテ・マルチアセット・アロケーション・マザーファンド」は、「ピクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド」および「ピクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド(適格機関投資家専用)」が投資対象とするマザーファンドで、信託財産の実質的な運用を行っております。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第2期の運用状況をご報告申し上げます。

●当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	投資信託証券への投資を通じて、実質的に日本を含む世界の株式および債券等への投資ならびにデリバティブ取引を行うことにより信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。
主要投資対象	投資信託証券
主な投資制限	投資信託証券への投資割合 …制限を設けません。 投資信託証券、短期社債等、コマーシャル・ペーパーおよび指定金銭信託の受益証券以外の有価証券への直接投資 …行いません。 外貨建資産への実質投資割合 …制限を設けません。

■設定以来の運用実績

決算期	基準価額		投資信託 証券比率	純資産 総額
		期中 騰落率		
(設定日)	円	%	%	百万円
2013年12月12日	10,000	—	—	967
1期(2014年8月15日)	10,202	2.0	86.3	4,823
2期(2015年8月17日)	10,907	6.9	86.1	6,572

(注1) 設定日の基準価額および純資産総額は、それぞれ当初設定価額および当初設定元本額を記載しています。

(注2) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

■当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		投資信託 証券比率
		騰落率	
(期首)	円	%	%
2014年8月15日	10,202	—	86.3
8月末	10,301	1.0	84.2
9月末	10,400	1.9	86.4
10月末	10,404	2.0	80.3
11月末	10,767	5.5	87.1
12月末	10,783	5.7	83.9
2015年1月末	10,775	5.6	86.9
2月末	10,824	6.1	86.7
3月末	10,857	6.4	90.3
4月末	10,920	7.0	91.5
5月末	11,007	7.9	91.6
6月末	10,860	6.4	87.8
7月末	10,871	6.6	86.5
(期末)			
2015年8月17日	10,907	6.9	86.1

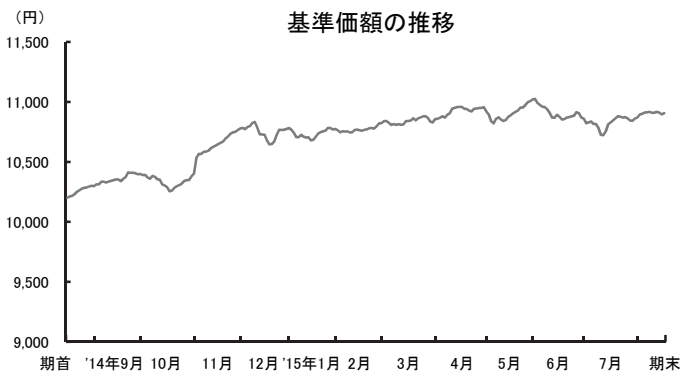
(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

■当期中の運用状況と今後の運用方針(2014年8月16日から2015年8月17日まで)

1. 基準価額の推移

当期の基準価額は、6.9%の上昇となりました。



○基準価額の high・安値

期首	期中高値	期中安値	期末
14/8/15	15/6/2	14/8/18	15/8/17
10,202 円	11,025 円	10,211 円	10,907 円

◇主な変動要因

(当期前半)

日本のナンバーワン企業の株式に投資する「ピクテ日本ナンバーワン・ファンド(適格機関投資家専用)」や世界の株式の中から高質な銘柄に投資する「ピクテークオリティ・グローバル・エクイティ」、米国の投資適格債で構成される指数に連動する運用成果を目指す「i シェアーズ・コア 米国総合債券市場ETF(米ドル建て)」などの上昇が基準価額の主な上昇要因となりました。

(当期後半)

世界の株式の中から高質な銘柄に投資する「ピクテークオリティ・グローバル・エクイティ」や日本のナンバーワン企業の株式に投資する「ピクテ日本ナンバーワン・ファンド(適格機関投資家専用)」、ユーロ建てハイ・イールド債券に投資する「ピクテユーロ・ハイ・イールド」、日本の小型株式で構成される指数に連動する運用成果を目指す「i シェアーズ・MSCI 日本小型株式 ETF(米ドル建て)」などの上昇が基準価額の主な上昇要因となりました。

2. 投資環境

- 当期前半の株式市場は、地政学リスクの高まりや世界景気の後退懸念などから下落する局面もありましたが、米国の経済指標が好調なことに加えて、欧州中央銀行(ECB)が量的金融緩和の姿勢を強めたことなどを背景に上昇しました。当期後半は、2015年1-3月期の落ち込みを経て、足元の米国経済に回復の兆しが見られたことや、日欧の景況感の改善が続いたこと、ギリシャと債権団が同国の第3次金融支援に関して合意に至ったことなどを背景に上昇しました。
- 当期前半の債券市場は、米雇用統計や米2014年7-9月期GDP(国内総生産)が市場予想を上回り下落する局面もありましたが、国際通貨基金(IMF)が世界の経済成長見通しを下方修正したことや、ウクライナ、中東情勢の混迷化、ギリシャ問題の再燃などを背景に上昇(利回りは低下)しました。当期後半は、ドイツを中心とした欧州経済に回復の兆しが見えることや、4月以降の米国の経済指標が回復基調に戻り年内利上げの観測が強まったことなどを背景に下落(利回りは上昇)しました。
- 当期前半の為替市場は、米連邦公開市場委員会(FOMC)においてゼロ金利解除に向けた議論が高まる中

で、日銀が予想外となる追加の量的金融緩和を実施したことなどを背景に、円に対して米ドルなどが上昇しました。当期後半は、ギリシャの第3次金融支援の枠組みに関して同国と債権団が合意に至ったことから、ギリシャの債務不履行懸念が後退し、円に対してユーロが上昇しました。また、米国で年内にも利上げが開始されるとの見通しから、円に対して米ドルが上昇しました。

3. 組入状況

投資信託証券への投資を通じて、世界中の株式や公社債など様々な資産を投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行ってまいりました。

投資信託証券の組入状況は以下のとおりです。

資産名	投資先ファンド (主な特色)	当期末 組入比率
債券	i シェアーズ・コア 米国総合債券市場 ETF (米ドル建て投資適格債券に投資)	10.9%
	ピクテ円インカム・セレクト・ファンドII (適格機関投資家専用) (ヘッジ後利回りの高い国の国債に厳選投資)	10.0%
	ピクテ - ユーロボンド(HI JPY) (ユーロ建て債券に投資、円ヘッジ)	7.5%
	ピクテグローバル・エマージング・デット (米ドル建て新興国債券に投資)	5.0%
	ピクテ - US ハイ・イールド (米ドル建てハイ・イールド債券に投資)	2.5%
	ピクテ - エマージング・コーポレート・ボンド (新興国の社債に投資)	2.5%
	ピクテユーロ・ハイ・イールド (ユーロ建てハイ・イールド債券に投資)	2.5%
株式	i シェアーズ MSCI オール・カントリー・ワールド・ミニマム・ボラティリティ ETF (先進国・新興国の低ボラティリティ指数へに連動を目指す)	3.7%
	ピクテ - クオリティ・グローバル・エクイティ (世界の株式の中から高質な銘柄に投資)	2.5%
	ピクテ - グローバル・メガトレンド・セレクション (ピクテのテーマ戦略に投資)	2.4%
	i シェアーズ MSCI ジャパン 中小型 ETF (日本の中小型株に投資)	2.4%
	ピクテ日本ナンバーワン・ファンド(適格機関投資家専用) (日本のナンバーワン企業の株式)	1.3%
	i シェアーズ JPX 日経 400 ETF (JPX 日経インデックス 400 への連動を目指す)	1.2%
オルタナティブ	ピクテ - アブソリュート・リターン・フィックスド・インカム (世界の様々な債券や通貨等に投資し、絶対収益の獲得を目指す)	6.2%
	ピクテ・トータル・リターン - コスモス (グローバル・クレジット・ロング・ショート戦略)	5.2%
	ピクテ・トータル・リターン - アゴラ (市場中立型欧州株式ロング・ショート戦略)	4.9%

資産名	投資先ファンド (主な特色)	当期末 組入比率
オルタナティブ	ビクテ・トータル・リターンーディバーシファイド・アルファ (株式や債券等に投資し、絶対収益を目指すマルチストラテジー型市場中立運用)	4.9%
	ビクテ・トータル・リターンーマングリン (グレイターチャイナ(香港、台湾、中国)株式ロング・ショート戦略)	2.4%
	NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信 (東証REIT指数への連動を目指す)	1.3%
	ビクテ(CH)プレシヤス・メタル・ファンドーフィジカル・ゴールド (金に投資)	1.3%
短期金融商品等	ビクテーショートターム・マネー・マーケットJPY (短期金融商品等に投資)	5.6%

(注) “PGSF”は「ビクテ・グローバル・セレクション・ファンド」の略称です。以下当略称で表記する場合があります。また、組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(当期中半)

当ファンドでは安定した収益が見込める債券や短期金融商品をポートフォリオの中核に据えました。株式については、日経平均先物のショートポジションを閉じると共に、新興国株式のETFを買増しました。債券については、ユーロ建て債券を一部売却し、英国債先物を新規で買い建てました。また、足元で金融市場が不安定化しているため、ヘッジとして株式や債券と相関の低い金のポジションを新規に構築しました。ドルの為替ヘッジポジションを増やしたため、円資産の比率は上昇しました。

(当期末半)

引き続き、安定した収益が見込める債券や短期金融商品をポートフォリオの中核に据えました。株式については、中国の景気見通しに対する懸念が深まる中で新興国のエクスポージャーを引き下げ一方、低ボラティリティ戦略への投資を開始してポートフォリオ全体のリスク引き下げを図りました。また、日本の構造改革に対する期待から、ROE等の指標を基に銘柄を選別した指数への投資を開始した他、日本のREITも新規に購入しました。債券については、年内にも米国で利上げが開始されると見られる中で新興国通貨が弱含んでいることから、現地通貨建て新興国国債を売却する一方で、米ドル建て新興国国債を買増しました。また、先進国の金利が歴史的な水準まで低下したことから先進国国債のエクスポージャーを削減する一方、利回り水準が相対的に魅力的なオーストラリア国債先物を新規で買い建てました。また、ECBによる量的金融緩和策が下支えになると考え、ユーロ建ての国債およびハイ・イールド債券を買増しました。ドルの為替ヘッジポジションを若干縮小したため、円資産の比率は低下しました。

4. 今後の運用方針

株式と債券をバランス良く保有することでリスクに配慮したポートフォリオを維持します。日本と欧州では大規模な量的金融緩和が相場の下支えになると期待できるため、日本の大型・小型株式、REIT、欧州の株式ロング・ショート戦略やユーロ建ての国債、ハイ・イールド債券が有望な投資先になると見えています。新興国では、金融政策が緩和的なアジア市場には比較的投資妙味があると見えますが、中国の景気見通しや人民元の実質切り下げなどの動きを受けて、足元では警戒的なスタンスを強めています。株式と債券との相関が低いことから、リスクヘッジとして金への投資は継続します。

■1 万口 (元本 10,000 円) 当たりの費用明細

項 目	当 期 (2014年8月16日～2015年8月17日)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
平均基準価額	10,730円	—	期中の平均基準価額(月末値の平均値)です。
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	7円 (7)	0.062% (0.062)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税 (投資信託証券)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ・有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用 (保管費用)	0 (0)	0.003 (0.003)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
合 計	7	0.065	

(注1) 上記の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます)は、設定・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目毎に小数第3位未満は四捨五入しています。

(注3) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(注4) 各金額の円未満は四捨五入しています。

■当期中の売買および取引の状況(2014年8月16日から2015年8月17日まで)

投資信託受益証券、投資証券

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国 内		口	千円	口	千円
	ビクテ円インカム・セレクト・ファンドII (適格機関投資家専用)	531,867,154	532,539	849,415,245	846,958
	ビクテ日本ナンバーワン・ファンド(適格機関投資家専用)	30,422,449	38,852	85,122,606	114,001
	NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	85,050	168,057	40,000	73,222
	i シェアーズ JPX日経400 ETF	5,400	82,375	—	—
外 邦	ピクテ - ユーロボンド(HI JPY)	8,194	638,969	1,772	139,449
	ピクテ - ユーロボンド(I JPY)	3,203	246,795	8,259	630,416
	ピクテ - グローバル・エマーゼンティ	5,343	84,769	13,987	222,131
	ピクテ - グローバル・エマーゼンティ・デット	33,595	459,221	9,468	128,339
	ピクテ - ユーロ・ハイ・イールド	5,098	177,790	180	6,140
	PGSF - グローバル・ユーティリティーズ・エマーゼンティ・ファンド	6,301	60,104	19,291	185,052
	PGSF - 新興国ハイインカム株式ファンド	1,181	11,895	12,866	134,306
	ピクテ - ショートターム・マネー・マーケットJPY	930	94,469	2,026	205,911
	ピクテ - エマーゼンティ・ローカル・カレンシー・デット	7,191	138,466	13,730	261,503
	ピクテ - USハイ・イールド	13,053	234,307	4,199	76,122
	ピクテ - グローバル・メガトレンド・セレクション	5,493	156,186	—	—
	ピクテ - トータル・リターン - マンダリン	9,068 (△2)	108,977 (—)	966	11,924

		買 付		売 付		
		口 数	金 額	口 数	金 額	
外 邦	貨 建		口 千円	口 千円		
		ピクテ・トータル・リターン - コスモス	8,756	91,594	10,817	112,938
		ピクテ - エマージング・コーポレート・ボンド	13,617	159,013	12,431	144,709
		ピクテ・アブソリュート・リターン・フィックスド・インカム	14,723	159,663	10,718	115,660
		ピクテ(CH)プレシヤス・メタル・ファンド-フィジカル・ゴールド	6,205	88,611	162	2,393
		ピクテ・トータル・リターン - アゴラ	13,182	200,774	683	10,179
外 国	貨 建	ピクテ・トータル・リターン-ディバーシファイド・アルファ (アメリカ)	口 千米ドル	口 千米ドル		
		ISHARES MSCI ALL COUNTRY WORLD MINIMUM	27,500	1,937	—	—
		ISHARES MSCI JAPAN SMALL-CAP ETF	21,093	1,128	—	—
		ISHARES TIPS BOND ETF	—	—	10,265	1,147
		ISHARES CORE U. S. AGGREGATE BOND ETF	35,650	3,914	15,190	1,679
		ISHARES MSCI EMERGING MARKET	37,400	1,544	37,400	1,474
		ISHARES MSCI ALL COUNTRY ASIA EX-JAPAN	18,200	1,166	18,200	1,102

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) 単位未満は切り捨てています。

(注3) ()内は分割・償還による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注4) —印は該当がありません。

(注5) “PGSF”は「ピクテ・グローバル・セレクション・ファンド」の略称です。以下当略称で表記する場合があります。

■利害関係人との取引状況等(2014年8月16日から2015年8月17日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

■自社設定投資信託受益証券等の状況等

該当事項はありません。

■特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

■組入資産の明細(2015年8月17日現在)

(1) 邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)		当 期 末		
	口 数	口 数	口 数	評 価 額	比 率
				千円	%
ピクテ - ユーロボンド(I JPY)	5,056	—	—	—	—
PGSF - グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド	12,990	—	—	—	—
PGSF - 新興国ハイインカム株式ファンド	11,685	—	—	—	—
ピクテ - エマージング・ローカル・カレンシー・デット	6,539	—	—	—	—
ピクテ円インカム・セレクト・ファンドⅡ(適格機関投資家専用)	971,818,256	654,270,165	654,662	654,662	10.0
ピクテ - ユーロボンド(HI JPY)	—	6,421	494,675	494,675	7.5
ピクテ - アブソリュート・リターン・フィックスド・インカム	33,733	37,738	410,141	410,141	6.2
ピクテ - ショートターム・マネー・マーケット	4,750	3,654	371,031	371,031	5.6
ピクテ・トータル・リターン - コスモス	34,470	32,410	338,656	338,656	5.2
ピクテ - グローバル・エマージング・デット	—	24,127	330,526	330,526	5.0
ピクテ・トータル・リターン - アゴラ	8,615	21,114	322,995	322,995	4.9
ピクテ・トータル・リターン - ディバシファイド・アルファ	8,548	21,715	321,473	321,473	4.9
ピクテ - クオリティ・グローバル・エクイティ	18,214	9,570	163,114	163,114	2.5
ピクテ - ユーロ・ハイ・イールド	—	4,918	166,250	166,250	2.5
ピクテ - US ハイ・イールド	—	8,854	161,785	161,785	2.5
ピクテ - エマージング・コーポレート・ボンド	11,060	12,246	163,132	163,132	2.5
ピクテ - グローバル・メガトレンド・セレクション	—	5,493	158,845	158,845	2.4
ピクテ・トータル・リターン - マンダリン	5,400	13,499	159,526	159,526	2.4
ピクテ日本ナンバーワン・ファンド(適格機関投資家専用)	113,214,721	58,514,564	82,411	82,411	1.3
NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	—	45,050	82,801	82,801	1.3
ピクテ(CH)プレシヤス・メタル・ファンド - フィジカル・ゴールド	—	6,043	82,854	82,854	1.3
i シェアーズ JPX日経 400 ETF	—	5,400	81,540	81,540	1.2
合 計	1,085,194,042	713,042,987	4,546,427	4,546,427	69.2

- (注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。
(注2) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。
(注3) -印は組入れがありません。

(2) 外貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)		当 期 末		比 率
	口 数	口 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	口	口	千米ドル	千円	%
ISHARES TIPS BOND ETF	10,265	—	—	—	—
ISHARES CORE U.S. AGGREGATE BOND ETF	32,107	52,567	5,733	713,245	10.9
ISHARES MSCI ALL COUNTRY WORLD MINIMUM	—	27,500	1,964	244,327	3.7
ISHARES MSCI JAPAN SMALL-CAP ETF	—	21,093	1,264	157,280	2.4
合 計	42,372	101,160	8,961	1,114,853	17.0

- (注1) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。
(注2) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。
(注3) 評価額の単位未満は切り捨てています。
(注4) -印は組入れがありません。

■投資信託財産の構成

(2015年8月17日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投 資 信 託 受 益 証 券	2,099,124	31.9
投 資 証 券	3,562,156	54.1
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	927,542	14.0
投 資 信 託 財 産 総 額	6,588,822	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注2) 当期末における外貨建純資産(1,116,106千円)の投資信託財産総額(6,588,822千円)に対する比率は16.9%です。

(注3) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは、1米ドル=124.40円です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2015年8月17日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	6,588,822,828円
コール・ローン等	853,187,682
投資信託受益証券(評価額)	2,099,124,693
投資証券(評価額)	3,562,156,325
未 収 入 金	73,222,380
未 収 配 当 金	1,131,165
未 収 利 息	583
(B) 負 債	16,563,732
未 払 解 約 金	16,563,732
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	6,572,259,096
元 本	6,025,897,383
次 期 繰 越 損 益 金	546,361,713
(D) 受 益 権 総 口 数	6,025,897,383口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,907円

<注記事項(当運用報告書作成時点では、監査未了です。)>

(貸借対照表関係)

(注1) 期首元本額 4,728,079,014円

 期中追加設定元本額 2,141,662,672円

 期中一部解約元本額 843,844,303円

(注2) 1口当たり純資産額 1.0907円

(注3) 期末における元本の内訳

 ビクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド 5,460,537,014円

 ビクテ・マルチアセット・アロケーション・ファンド(適格機関投資家専用) 565,360,369円

■損益の状況

当期(自2014年8月16日 至2015年8月17日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	52,190,236円
受 取 配 当 金	52,016,159
受 取 利 息	174,077
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	277,051,374
売 買 益	336,445,571
売 買 損	△ 59,394,197
(C) そ の 他 費 用 等	△ 156,728
(D) 当 期 損 益 金 (A + B + C)	329,084,882
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	95,372,308
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	175,031,810
(G) 解 約 差 損 益 金	△ 53,127,287
(H) 計 (D + E + F + G)	546,361,713
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	546,361,713

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)その他費用等にはその他費用に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

〈お知らせ〉

投資信託及び投資法人に関する法律の改正等に伴い、重大な約款変更等に係る書面決議要件の緩和、重大な約款変更等の定義の変更および反対者の買取請求が不適用となるため、所要の約款変更を行いました。
指定投資信託証券を追加、削除および名称変更することに伴い、所要の約款変更を行いました。